

県民みんなで支える新たな森林づくりの地域意見交換会の結果について

1 開催日 平成 18 年 6 月 12 日 (月)～19 日 (月)《6 日間》 18 時～

2 開催場所及び参加人数

- ・ 県内 8 箇所、298 名の参加
《山形市 42 名、村山市 52 名、寒河江市 34 名、米沢市 18 名、長井市 47 名、新庄市 52 名、鶴岡市 26 名、酒田市 27 名》
《参加者の内訳 一般県民、緑を育てる女性の会、森の案内人、森林組合、林業クラブ、生産森林組合ほか》

3 周知の方法

- ・ 市町村広報での周知 (長井市、米沢市は広報掲載されず)、環境 NPO 団体や森づくり団体への PR パンフ郵送、広報番組による周知

4 地域意見交換会での意見

《施策全般について》

- ・ 百年後に「豊かなやまがた森林」を引き継ぐためにどのようなことが必要なのか、是非、県はそのための政策提言をしてほしい《山形市》
- ・ 新たな森づくりについて県民に認めてもらうことはすごく大変なこと。森林・林業を取り巻く状況の変化から、従来の手段のみでは対応できないこともあり、これからの新たな方向性を示してもらいたい《鶴岡市》
- ・ 荒廃森林の整備・保全是、豊かで安全な国土の保全につながることから、国が責任を持って新たな制度の検討をすべきであるが、国に先駆け県独自に取り組むことも必要である《寒河江市・新庄市ほか》

《環境保全を重視した施策の展開について》

- ・ 管理が放棄され山に行かなくなり、境界が分からない状態になっている。この状態では、いかなる施策も展開できなくなるため、早急に森林の所有界の保全を図る仕組みが必要《村山市ほか》
- ・ 環境保全の面からは広葉樹も入れて、混交林化による森林の再生を図っていくべき《新庄市》
- ・ 持続的な森林整備が行われるよう、新たな財源を活用した「県産スギ材の需要拡大」や「里山の広葉樹の利活用」を推進することが必要《長井市ほか》
- ・ ナラ枯れ被害や松くい虫被害跡地は、そのまま放置すると災害につながる可能性があるため、新税での対応が必要《鶴岡市ほか》

《21 世紀にふさわしい県民と森林の関わり方の構築について》

- ・ 森林の大切さを理解してもらうため、子供たちを対象にした「ふるさと教育の森」のような事業を全県で展開してほしい《村山市》
- ・ 山から海につながる一連の生態系の保全に着目した森づくりを展開することが必要。さらに、新たな事業では、野生生物の調査や保全活動への支援を検討してほしい《山形市、村山市ほか》
- ・ NPO やボランティアの活動をコーディネートしたり情報提供する支援組織が必要《長井市》

《新たな財源の確保について》

- ・ 税の目的や用途が明確であり納得できれば賛成するが、具体的な提案がない状況では判断できない《米沢市》
- ・ 森林整備は個人の財産形成にも寄与する一面もある。また、きちんと管理されたところには新たな財源が投入されず、放棄されたところだけに財源を投入するとことになると「公平性」をどう保つのが課題である《新庄市》
- ・ 既存の施策の見直しや縮減により新しい費用負担を求めなくてもできるのではないかという声が上がったときにきちんと説明できるようにすることが必要《酒田市》
- ・ 森林の荒廃を防いでいくには、どのくらいの事業規模でどのくらいの財源を投入しなければ山形県のみどりが守れないのかこの機会に明確に示すべき。一般財源ではここまで、新しい税ではここまでというものを示さないと本当の県民の理解は得られない《酒田市、新庄市ほか》